



一流を目指す富士中学校

学校だより

http://school.city.koshigaya.saitama.jp/fuji_j/

2022年度
令和4年度7月号
校長 土谷 昌秋
教育目標
『志に燃える』
越谷市立富士中学校

122対0

夏を迎えるころ、思い出す話がある。

今から24年前。平成10年（1998年）第80回全国高等学校野球選手権大会。青森県予選。今も記録に残る試合があった。当時全校生徒66人の小さな学校、青森県立深浦高校（現在は木造高校深浦校舎、分校になっています）と甲子園に出場経験のある私立東奥義塾高校との試合。

高校野球の歴史に残る試合。この試合で作られた記録は今後も絶対に破られることはないだろうと言われている。

122対0。

7回コールドで東奥義塾高校が勝った試合である。敗れた深浦高校には「途中で試合放棄するべきだ。」という非難が寄せられ、勝った東奥義塾高校にも「あそこまでしなくても。」という非難が寄せられた。

この話を聞いたとき、感じたことは両チームの姿勢のすばらしさだった。

東奥義塾高校は「全力でプレーする、力を抜かない野球」をモットーにその精神を如何なく発揮した。相手がどこであれ、全力で戦う。この気持ちにすばらしさを感じた。

一方、深浦高校は試合後の姿勢。122点も取られ、全国的にこの話が広まり、もう二度と野球なんかやりたくないと思うのでは…決してそんなことはなかった。その秋から再び下級生の手で活動が再開され、この試合から6年後の平成16年度の予選でついに夏の初勝利を勝ち獲ったのである。

この試合は当時マスコミでも大きく取り上げられ、大騒ぎになったことを記憶している。

試合放棄だの、あそこまでしなくても、と、とかく周り（まさに外野）は好きなことを言う。

しかし、当事者たちは、それぞれの姿勢、それぞれの志で次への一步を踏み出している。

夏は、次への一步を踏み出すには、またとない季節なのかもしれない。



次への一步を